

人生二毛作社会推進事業について

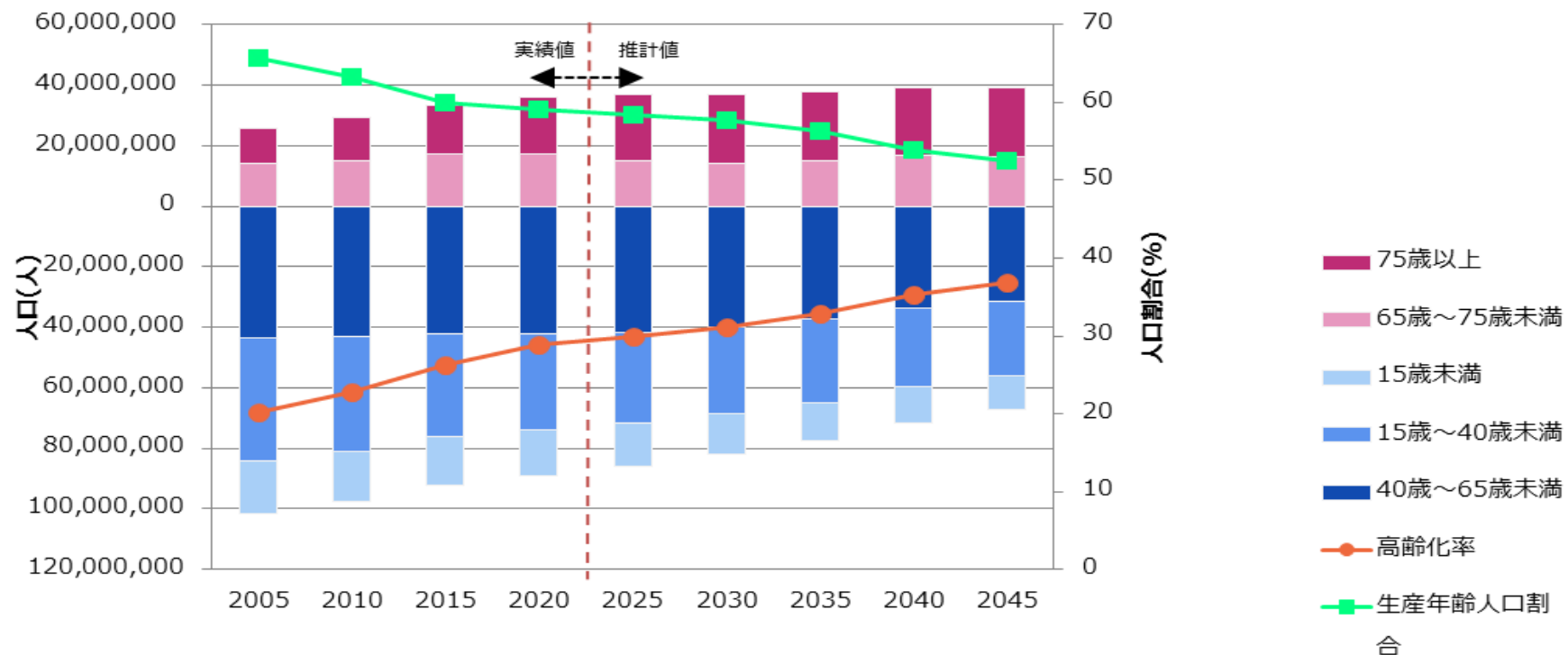
健康増進課



1 日本の人口推移と将来推計

- 総人口が減少する中で65歳以上の高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、2036年に3人に1人が高齢者となると推計されている。
2045年以降は高齢者人口増加は落ち着いても高齢化率は上昇を続け、2065年には約2.6人に1人が高齢者となる社会が到来すると見込まれている。

日本の人口推移と将来推計



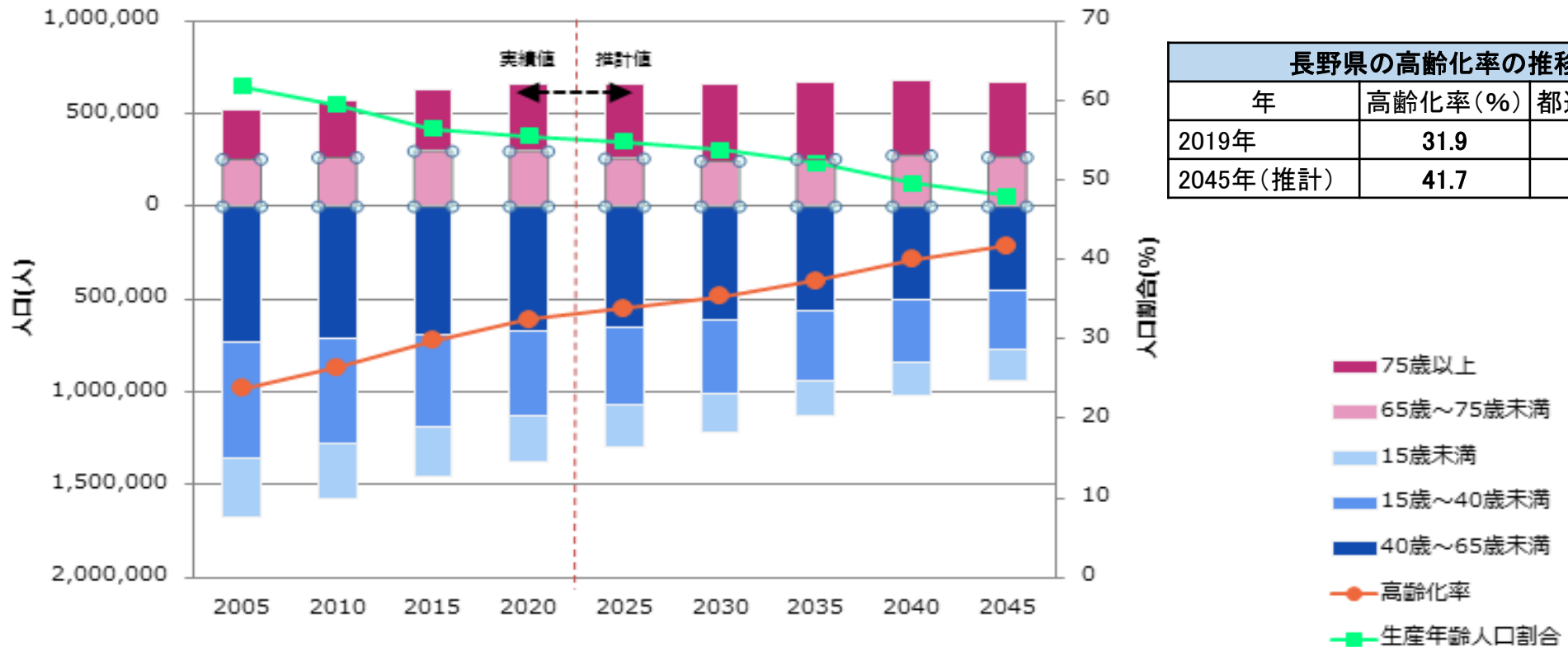
(出典) 2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」

2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

2 長野県の人口推移と将来推計

- 全国と同様に、県内総人口が減少する中で、65歳以上の高齢化率は増加が続いている。2020年は3人に1人が高齢者であるが、2045年には約2.4人に1人が高齢者となると推計されている。 ⇒ 長野県の高齢化は全国より速い。

長野県の人口推移と将来推計



長野県の高齢化率の推移		
年	高齢化率(%)	都道府県順位
2019年	31.9	18位
2045年(推計)	41.7	9位

(出典) 2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」

2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

3 健康寿命

- 長野県は健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均）が男女ともに全国 1 位

健康寿命上位 3 都道府県

(歳)

令和元年					
順位	男性		順位	女性	
	全国平均	79.9		全国平均	84.2
1	長野県	81.1	1	長野県	84.9
2	滋賀県	81.0	2	島根県	84.8
3	奈良県	80.7	2	大分県	84.8

【算出方法】介護保険の要介護度 2 未満を健康な状態として、算出。

【出典】R元年調査、公益財団法人国民健康保険中央会「平均自立期間」

4 高齢者（65歳以上）の有業率

○ 長野県は全国1位

(%)

順位	平成29年	
	全国平均	
		24.4
1	長野県	30.4
2	山梨県	30.3
3	福井県	27.8
4	東京都	27.7
5	栃木県	27.3
5	岐阜県	27.3

【算出方法】 高齢者（65歳以上）のうち、有業者の割合。

【出典】 H29年調査、総務省「就業構造基本調査」

5 高齢者（65歳以上）のボランティア活動者比率

○ 長野県は全国4位

(%)

順位	平成28年	
	全国平均	
		26.4
1	滋賀県	35.1
2	富山県	31.8
3	岐阜県	31.5
4	長野県	31.4
5	岡山県	31.0

【算出方法】 高齢者（65歳以上）のうち、ボランティア活動を行った者の割合。

【出典】 H28年調査、総務省「社会生活基本調査」

6 人生二毛作社会推進事業

○ しあわせ信州創造プラン2.0 重点政策「人生二毛作社会の実現」に向けて、シニア世代が、培ってきた豊富な知識と経験を社会参加や仕事で活かし、地域の担い手として元気に活躍できる人生二毛作社会を推進

人生二毛作推進県民会議の開催

- ・ 関係団体（17団体：経営者協会、連合長野、社協、JA、公民館運営協議会等）
- ・ シニア活動推進コーディネーター
- ・ 県関係課

各圏域の活動事例・
課題の共有

解決策の検討・
県施策へ反映

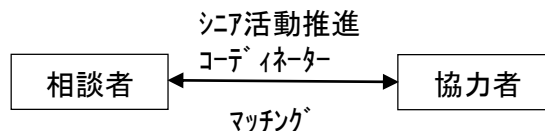


シニアが地域で活動できる仕組みづくり (地域単位 (10圏域))

ネットワーク会議 (広域的かつ多様な主体との連携)

- ・ 関係団体（市町村、社協、シルバー人材センター、JA、NPO、公民館等）
- ・ シニア活動推進コーディネーター（事務局）

地域の課題に応じる相談窓口機能



シニアの活躍の場の提供・社会参加活動を普及啓発

- ・ タウンミーティングの開催
- ・ 信州型コミュニティスクールの支援
- ・ 子ども食堂の支援
- ・ 地域の居場所づくりの支援



地域で活動できる人材の育成

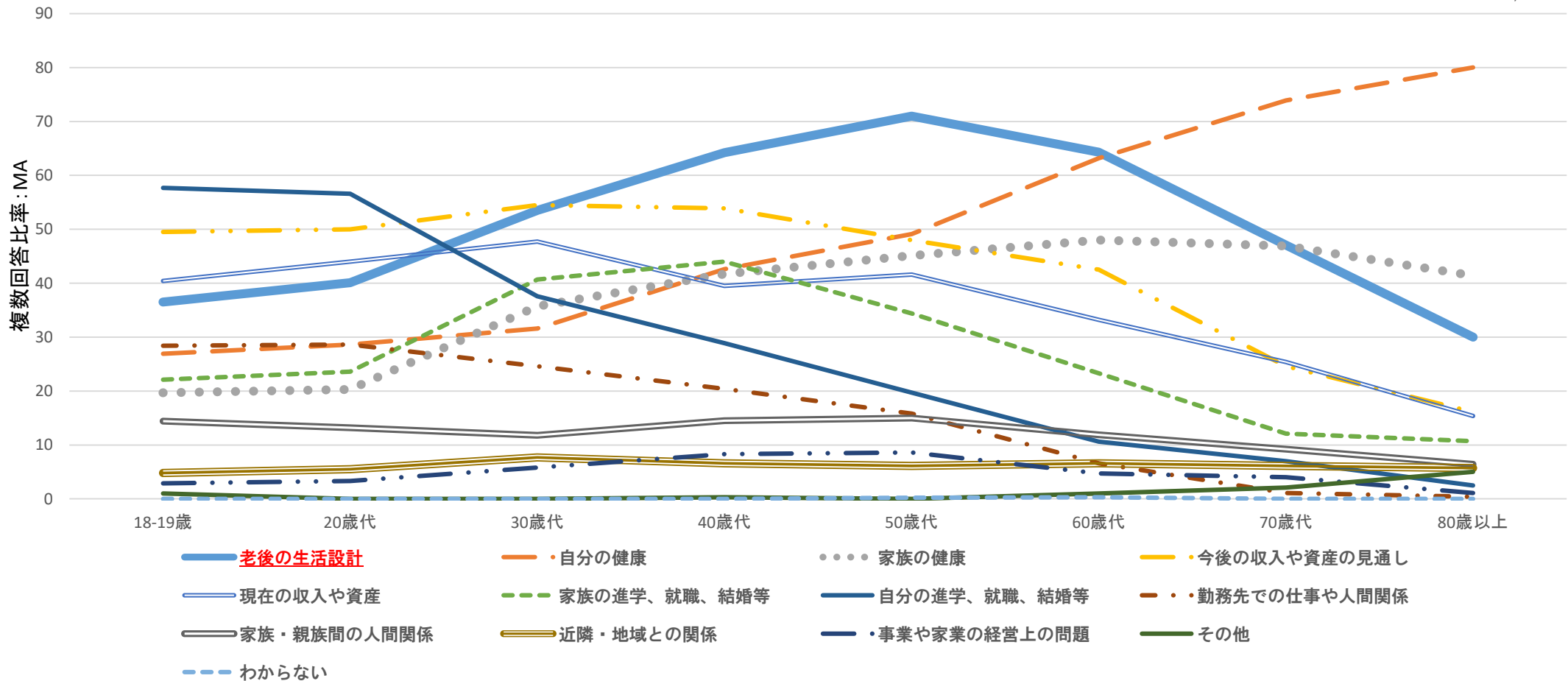
- ・ シニア大学による人材育成

7 人生100年時代を迎えて

○ 県内人口の動向を踏まえ、現役世代である中高年に対して「退職後の人生を充実させるライフデザイン」の啓発を早期に図る必要がある。
⇒ 人生二毛作社会推進事業の展開

(設問) 日常生活での悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。(複数回答)

n=3,469



【出典】 R元年6月調査、内閣府「国民生活に関する世論調査」

8 県政モニターアンケート調査結果

- 人生100年時代にふさわしい事業に展開させるため、本事業に対する調査を実施。
(令和3年8月31日～9月14日、県内在住の899人が回答)

(設問) 「人生二毛作社会」という表現について

「そう思う」、「少しはそう思う」を合わせた割合 (①～③の各項目に対して単数回答)

- ① 退職したシニアの第二の人生：**66.0%**
- ② 高齢者を対象とした社会（若者や中高年者の関わりが薄い）：**48.1%**
- ③ 「人生二毛作社会」のイメージが湧かない：**44.3%**

- ④ その他（自由記載）：**122件**

【主な意見（抜粋）】

- マルチステージを生きる時代、多様性を制限する表現に感じる。
- 退職を区切りに考えるのは、正しいアプローチであるか。
- 副業を推進する社会と勘違いしてしまいそう。
- ポジティブなイメージとなる表現が良い。

また、「イメージが湧かない」、「表現が分かりにくい」、「ふさわしい表現にした方が良い」との意見が多数。